

授業科目(ナンバリング)	相談援助実習指導ⅡB (DB305)			担当教員	大島 啓・梅野 潤子・中村 尚生 坂本 雅俊・柳 智盛・野田 健		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>「相談援助実習指導Ⅰ・ⅡA・ⅡB」では、ディプロマポリシーに照らし、「相談援助実習」による実践教育を柱に、専門知識・技能を習得し、それらを国際社会及び社会生活における様々な課題に適用して解決を図ることができるようになることを目的とし、次の4点を授業のねらいに据えている。</p> <p>①相談援助実習の意義について理解する、②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>この科目は、実習の事後学習を行う時間であり、いわば相談援助実習関連の総まとめの時間である。実習で学んだことと今後の課題を整理することにより、人をかけがえのない存在として捉え、生活課題を抱える人々を支援し、地域社会の課題に対応する能力を身に付け、社会福祉専門職としての歩みの第一歩を踏み出してもらいたい。</p>							①④⑤ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・実習で学んだこと等を的確に整理し、まとめることができる。 ・実習で学んだこと、戸惑ったこと、失敗したこと等について振り返り、自己を適切に評価することができる。 			実習報告会での報告内容 実習報告書 授業内外レポート		10% 35% 15%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を客観視し、社会福祉専門職となるために必要とされる課題を明確にすることができる。 			実習報告会での報告内容 実習報告書 授業内外レポート		10% 5% 5%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な福祉的課題に具体的に対応する基礎が備わっている。 			実習報告会での報告内容 実習報告書		10% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「実習報告会での報告内容」(30%)「実習報告書」(50%)は、実習内容の概要、実習課題とその達成状況、残された課題等をどのように口頭で報告し、報告書にまとめたかを評価する。「授業内外レポート」(20%)は、授業内やポートフォリオで提示する課題に対する成果物を意味し、その出来栄を評価する。なお、提出物は締切厳守である。これらの評価のフィードバックについては、授業内に個別・集団指導の形式にて行う。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、担当教員がそれぞれ少人数クラスを受け持ち、15回の授業を通じて、夏季の「相談援助実習」を基に、①実習の事後実務、②実習の振り返り、③実習課題の達成状況の整理、④実習報告書の作成、⑤実習報告会での報告を行う。ポートフォリオで課題提示や諸連絡・指導をしつつ、授業でディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを通じて各々の実習成果等を共有していくことで、社会福祉専門職(社会福祉士)としての歩みの第一歩を踏み出す。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修、長谷川匡俊・上野谷加代子他編(2014)『社会福祉士 相談援助実習(第2版)』中央法規。*「相談援助実習指導Ⅰ」「相談援助実習指導ⅡA」と共通。</p> <p>参考書：福祉小六法編集委員会編(2021)『福祉小六法』みらい(法律を適時確認するために活用)</p> <p>指定図書：教科書と同じ</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

実習先において、多様な社会的・家族的・個人的背景をもった利用者と接するなかで、自己ならびに他者に対する理解の枠組みが根底から揺るがされる場面に遭遇することもある。さらに対人関係や自己の未熟さに戸惑うかもしれない。自分を見失うことなく、幾多の試練を成長につなげていくには、主体的な事後学習によって、自身の問題意識を深化・明確化させることが不可欠である。各自の研鑽に期待する。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	配属実習での巡回指導	これまでの実習を振り返り、成果と課題を抽出する。また、今後の実習プログラムの確認を行う。	予習:実習体験をまとめ、報告・相談できる準備をする。 復習:指導内容をまとめる。
2	帰校日指導①	大学において、課題の達成状況や他の実習生の実習について情報交換を行う。	予習:帰校日レポートを仕上げてくる。 復習:指導内容をまとめる。
3	帰校日指導②	大学において、課題の達成状況や他の実習生の実習について情報交換を行う。	予習:帰校日レポートを仕上げてくる。 復習:指導内容をまとめる。
4	実習の事後実務	「実習を終えて」の執筆および礼状の作成と送付を行う。	予習:実習記録と礼状を作成する。 復習:実習記録と礼状を完成させる。
5	実習体験の共有	クラスのメンバーの前で実習体験を報告し、互いの経験、感じたこと、考えたことを共有する。	予習:実習日誌を熟読し、体験を整理する。 復習:授業内容をまとめる。
6	実習の達成課題の整理	実習日誌をもとに、実習計画書に記した実習課題の達成状況を整理する。	予習:実習課題の達成状況を確認する。 復習:授業内容をまとめる。
7	実習の振り返り	実習日誌をもとに、実習において学んだこと、戸惑ったこと、失敗したこと等を振り返る。	予習:実習日誌を熟読し、実習前と後の自分の変化(成長)についてまとめる。 復習:授業内容をまとめる。
8~9	実習報告会の準備①、②	実習報告会の報告資料を整え、実習報告書を執筆する。	予習:実習報告書に必要な資料を揃え、作成に入る。 復習:授業内の指導内容を実習報告書に反映させる。
10	実習報告書の作成	実習報告書を仕上げる。	予習:実習報告書を完成させる。 復習:実習報告書を読み返し、実習成果を再確認する。
11	実習報告会の準備	実習報告会のレジュメを作成する。	予習:レジュメを作成する。 復習:レジュメを完成させる。
12	実習報告会の練習	クラス内で実習報告会の練習をし、プレゼンテーションの準備をする。質疑応答などを通し、報告内容を確認しあう。	予習:報告の練習をする。 復習:クラスでの指摘、質問等について調べる。
13	実習報告会	他のクラスの学生・担当教員が一堂に会し、実習指導者の同席のもと実習報告を行う。	予習:報告の練習をする。 復習:報告会での指摘等を踏まえ報告書を推敲する。
14	グループ・スーパービジョン①	実習報告書を確認する。実習で学び得たもの、残された課題と今後それにどのように取り組むのがよいか、目指す社会福祉士像についてグループで考える。	復習:実習の成果と課題を整理する。
15	グループ・スーパービジョン②	実習で学び得たもの、残された課題と今後それにどのように取り組むのがよいか、目指す社会福祉士像についてのグループの考えを発表する。	復習:現在の達成状況と今後の目標、取り組むべき課題を整理し、実行に移す。